

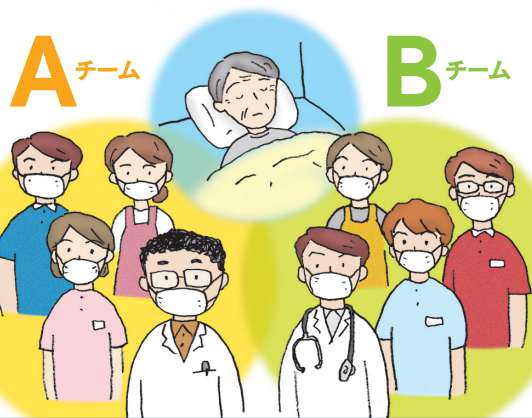
社会保障領域のインフルエンサーを目指す医療法人東西会グループ

連載 130 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック理事長
橋本 満義 (70歳・内科)

今まさに「新型コロナウイルス」が、私たちの社会活動に猛威をふるい、在宅患者さんの安全・安心な生活をおびやかしている。



M.Tさん(92歳、女性)は、10年来の在宅独居患者さんです。病名は、軽度認知症、気管支喘息、変形性脊椎症で、ヘルパーさんによる介護サービス(要介護認定)と理学療法士によるリハビリ治療にて日常生活を送っています。

最近のM.Tさんは、認知症が進んでいる上に運動能力も低下傾向にあり、寝たきりの時間が長くなって、廃用症状がみられ始めました。定期訪問診療を増やし、医学上の安全・安心を確認しなければいけないのですが「新型コロナウイルス」騒動のため、それもままなりません。

そんな状況のなか、M.Tさんから電話が入りま

した。「気分が少し悪く、食べたものを吐いてしまい、腹痛もする。往診をお願いしたい」といったものでした。至急、往診をし、点滴静脈注射のほか適切な薬剤対応などを施し、なんとか病状の改善回復となったのです。

今回の事例のように

- ① 一生自宅で療養、看取りを希望している超高齢独居の患者さんである。
 - ② 「新型コロナウイルス」の感染が高い“3つの密(密閉・密集・密接)”が発生するため、日ごろ必要な頻度の訪問が難しくなっている。
 - ③ 安全・安心な命を守る哲学とは何か？
- といった「三位一体」のはざまの中で、悶々とする毎日です。

まず「新型コロナウイルス」発生後に起こりうる事態を、しっかりと把握し理解する必要があります。

一言で言うなら「パラダイム・シフト(価値観の転換)」につきます。「新型コロナウイルス」は、異常事態ではなく「ニューノーマル(新常态)」だと捉え、対策を打たなければなりません。この「新型コロナウイルス」と共存し、感染に対して科学的に基づき準備し、流行を抑制するのです。

最終的には、私たちそれぞれの行動にかかってきます。また、政府、企業、個人とのコミュニケーションが重要になるでしょう。もちろん「在宅医療現場の安全・安心を担保する者たち」も、早急に行動を起こさなくてはと強く思うのです。

私たちは、医師も含め在宅医療チーム(医師、看護師、リハビリ、介護ほかのスタッフ)を〈A〉〈B〉の2チームに分け、お互いが“3つの密(密閉・密集・密接)”を避けながら、万全を期した行動を日々心がけています。

～安全・安心・健康塾～

〈ボランティア活動〉

人の命は、呼吸停止、心停止後5分間で死に至ります。(5分間ルール)現場の人たちを救命救急士として教育する「安全・安心・健康塾」出張講義に、期待が集まります。



医療法人 東西会グループ

外来診療(かかりつけ医) **内科** 要予約
内科・外科・麻酔科・ペインクリニック内科
(医師・薬村 歩)

お医者さんが来てくれる! 24時間・365日体制で対応
(松山市全域)

私たちは、質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。



医師数 22名
(令和2年5月現在)

末期がん治療(緩和ケア)相談室開設!

(医)東西会イメージキャラクター「イチゴ・ツル・カメ」三世代の「絆」を表すキャラクターです。イチゴはこどもたち、ツルはお父さん・お母さん、カメはおじいちゃん・おばあちゃんを表しています。

国立愛媛大学附属病院臨床研究協力機関
大阪医科大学(研修医・医学生)在宅医療研修・研究協力機関
関西医科大学との在宅医療研修・研究協力機関

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所
(医)東西会 千舟町クリニック
松山市千舟町6-4-9
Tel:089-933-3788
<http://www.touzaiikai.jp/>